

教育理念・目標	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・命と人権を重んじ、保護者と連携しすべての生徒に目をかけ成長をサポートする。 ・生徒の状況を学校全体で組織的に把握し、生徒を中心にすえた活動を展開する。 ・個々人が全体状況を見据え部分をコントロールし、持続可能な学校運営をめざす。 ・チームワークによる教育力向上をめざし、教員会議に結集し共通認識をつくる。 ・教育的な指導論の研究および研修を行い、自省的な教師集団への成長を目指す。

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2019年9月7日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業の充実により、理念の意識化に成果があがっている。 ・6月実施の法政大学付属校合同説明会は、入学前から「自由と進歩」の理念を理解して頂く機会となった。 				<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携の催しによって、生徒の大学への意識が高まったと思います。
2	組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全・安心」「信頼と共同」「対話と討論」「チームワークと学び合い」を合い言葉に社会の動向、生徒・保護者の様子をよく観察して教育活動をめざした。 ・夏の追悼の集いにあわせ追悼の碑の建立を実現し、いじめに向き合い安全な学校生活を実現し、学校事故を二度と起こさないという教訓を刻むことができた。ご家族との連絡を欠かすことなく継続しその意思を尊重し卒業式に参列頂いた。 ・通学時のリュックの導入を数年間検討したがPTA組織の切実な要求が後押しし、具現化した。 ・コンプライアンスが重要である今日、生徒や教員各個人のSNSやブログの利用などによる情報発信にも細心の注意が必要である。日々アップされる内容から学校の社会的評価を下げ、教育活動を円滑に遂行できない状況を生むことも想定されるため配慮を検討する必要がある。 ・働き方に関わる具体的な施策の検討を行い可能なことから試行した。具体的には、退校時刻を21時とし、テスト期間中以外の朝の全体での連絡会の廃止、新電話機の導入(次年度リプレイス)など。教育についての生徒、保護者の要求に応えながら、持続可能で安全な運営ができるよう、行事や通常業務を総点検することが課題である。 ・年間2回の学内研修は、夏は教務の諸課題、冬は働き方をテーマに行った。 「道徳」の本校での位置づけと授業のプラン、教科書採択の結果(光村図書『きみが いちばん ひかるとき』の採択理由、同教科書の特徴)を学び合った。また基礎的思考力確認テストの評価、2018年度導入の「特別推薦入試」を含め、法政大学付属校生対象の内部推薦制度の仕組みとスケジュール等、高等学校学習指導要領の内容およびそれに伴う新設科目および本校の高校教育課程の改訂について扱った。 「働き方改革の先にあるもの」をテーマに妹尾昌俊氏の研修を行った。業務の何を増やし、何を減らすか、建設的な議論のきっかけやヒントを学んだ。 ・個人情報の管理については、細心の注意を払う必要があるため、コンプライアンス研修に取り組んだ。教育に関する法令の内容やその活用について学ぶ機会を設けたい。 ・天候の対応に関するルールの見直しはできなかった。一方、新たな連絡手段として「フェアキャスト」を導入した。利用しやすい運用をめざしたい。 ・AV・ICT環境の経年劣化により2018年度9月に17台のプロジェクターを購入した。教員室と中高それぞれの学習室の計8ヵ所に分散配置し、有効利用のための環境整備を行った。新規プロジェクターWivia 5は、移動が便利で、スクリーンの設置をはじめ操作が容易であり、導入以降、授業や行事、PTAなど多くの場面で有効に活用されている。今後もICT環境の整備に努めたい(2019年度PCリプレイス予定)。 				<ul style="list-style-type: none"> ・学年のチームワークは素晴らしいと思います。他学年とのコミュニケーションも行き、学校として、統一のとれたチームワークができると、もっと良いと思います。 ・フェアキャスト導入は便利だと感じます。こちらからの連絡(欠席や遅刻等)に対し受理されたのかどうかかわからず不安なため、何かしらの回答があるとより助かります。
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>1. 進路・教科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校3年生を対象とした法政大学・他大学の推薦入試を含む進路指導業務を確実に遂行し、生徒一人ひとりの進路保障に努めた。 ・2019年度の中学校への「道徳」導入に伴う中学校教育課程の検討と改訂、「道徳」の授業内容の検討、今後のリメディアル授業の在り方に関する討議、試験問題の配付方法の変更など、2017年度の諸課題について、より適切な変更や改善を実施した。 ・「道徳」の導入にあたり本校の中学校教育課程全体を改訂した。 <p>①2019年度より中学の全学年に週1時間「道徳」を導入する。それに伴い、中1・中2ではリメディアル、中3では英語の授業時間をそれぞれ1時間減じ、「道徳」の授業時間を確保する。</p> <p>②上記①と連動し、中2のリメディアルを1時間減じ、英語の授業時間を1時間増加する。</p> <p>③音楽と美術の単位数に関して、新旧学習指導要領に則り2019年度以降は、中1のリ</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・高校でも道徳授業の中で、大学(進路)に関する情報等を与えるようにしてほしいです。

メディアルを1時間減じ、中学1年次に音楽と美術の授業を週0.5時間ずつ増やし、週に1.5時間とする。その結果、毎週各1時間、音楽と美術の授業を行うほか、隔週で音楽あるいは美術の授業を行う。

④上記①の「道徳」の授業は月曜日の5限に置き、中高共にホームルームを6限に設けることにより、「道徳」とホームルームの時間を連動させ、弾力的に運用する。授業は基本的には担任が担当し、成績評価に関しては、成績通知表への記載は義務化されていないため行わないが指導要録には記載する。さらに、「道徳」チームを新設し、「道徳」の授業づくりを牽引する。

- ・「道徳」導入に伴い次のように中学校教育課程が改訂された。①2019年度以降、数学と英語のリメディアル授業を平日の7限に設置する、②対象学年は現行通り中学1～2年生とする、③数学を火曜日、英語を木曜の15:30～16:20に設置する、④リメディアル授業は、入試説明会等でその説明を受けている2018年度の小学校6年生が中学2年生になる2020年度まで暫定的に継続し、2019年度中にその後の存廃について再度検討する。7限は最適とはいえ今後も継続審議を行う。
- ・図書室のICT化に向けて情報センターと協議を行い、2019年度からノートPCの導入、インターネット環境の整備を進めることになった。

2. 国際交流

- ・第4回カナダ語学研修(20名参加)、留学生の受け入れ(短期・長期各1名)、本校からの派遣留学生(4名)の書類作成、2017年度法政大学特別留学生(制度は2018年度以降廃止)の帰国報告会、ドイツのオステ-ギムナジウムへの生徒(2名)に取り組んだ。
- ・中2オーストラリア研修は2017年度の実施で10回目を迎え、様々な問題が顕在化している。本校生徒とホストファミリーとのディスコミュニケーションやホストファミリーの言語環境(自宅では母国語で会話)、衛生状況、食事内容などへの生徒の不応、帰国後の長期にわたる保護者への困難な対応、約20時間の移動から生じる生徒への身体的な負担と疲労、日程上の困難(日程の前倒し傾向と準備期間(の不足)、現地到着後2日間という短時間でホストファミリーとの関係づくりが不十分な状態で週末を迎えるという現状)などの諸問題が発生している。
10年間の成果と課題をふまえ、今後の中2オーストラリア研修を時期や内容・形態について発展的に変更することとした。2019年度以降も、安全かつ確実に業務を遂行しながら、法政大学の附属校らしい教育内容を検討したい。
- ・中学のオーストラリア語学研修で訪問しているNorwood Morialta High Schoolが国際的な学術会議「グローバル・サミット2019」(2019年3月24～31日)を企画し、本校高校生2名が参加した。会議は「新たな思考を通じた、豊かな人間性の創出」をテーマに、世界10カ国の中高生が地球規模の問題について対話し、そのためのスキルを養い、異文化理解を深めるというものでした。識者による基調報告、相互交流のためのワークショップ、異文化理解のためのパフォーマンスの実演、グループ発表を通じて、世界で起きているさまざまな問題を解決するための手立てについて考えることができた。

3. 生活指導

- ・「命と人権」を最重要視し、安全かつ安心な運営をめざした。
- ・スポーツ庁・文化庁によるガイドラインを参照し、成長期にある中高生が、学習、運動、休養、睡眠等のバランスのとれた生活を送れるよう議論し継続課題とした。
- ・生徒が個々の「違い」を互いに尊重し合えるような人間関係作りを心がけた。指導する側が率先して日頃の言葉づかいに細心の注意を払っていききたい。
- ・携帯電話・スマホの使用に関するルールが守れない場合の対応(担任が保管し、保護者へ返却)に関しては、生徒の登下校時の防犯・緊急時における保護者との連絡等の観点から現行の見直しを図りたい。
- ・教員の登下校指導について働き方改革の面からも形態を含め検討していく。
- ・スクールバッグに加え、学校指定のリュックサックの導入が実現した(在庫数に限りがあるため全面導入は2020年度)。周知方法も含め、円滑な導入が可能となるよう、着実に準備を進めていきたい。
- ・中高新入生ガイダンス、各学年の実情に応じてインターネット利用アドバイザーや、KDDIスタッフによる講演を行った。しかしながら、インターネット・SNSを介しての問題行動がしばしば見られた。講演等を通して危機意識を高めトラブルの未然防止に努める必要がある。
- ・生活指導部教員が体育科の教員の協力の元、各学期に1度「身だしなみチェック」を行った。生徒が自分の事としてとらえる指導が肝要である。

4. 生徒会

- ① 生徒が自発的、自治的に各行事を運営できるよう指導した。高校新入生歓迎会では、新入生と上級生とが交流できるようブース形式のクラブ紹介を行った。スポーツ大会ではトーナメント形式の採用などの工夫がなされた。全体のまとまりや運営の円滑化などを目的に、クラスTシャツを作成した。
- ② 陸上競技大会を校内開催としたことで、これまで課題であった生徒の登下校の負担、救護室の確保、着替え場所の確保等の問題が解消された。保護者観覧については、保護者への連絡や当日の体制において大きな問題なく実行できたが、雨天時の対策が課題である。中高スポーツ行事の裏で授業を実施する形態をとったが、中高それぞれの授業への支障は特になかった。今後もこの形態で実施したい。
- ③ スポーツ大会および鈴掛祭における携帯電話の扱い・身なりのルールを作成し実施した。一定のモラルは守られたが、鈴掛祭における写真撮影については、来校者も含めての対応が必要である。
- ④ 中夜祭・後夜祭における体育館入場時の駆け込みについては、開演30分前から開門することにより、事故を未然防止することができた。

		<p>⑤ 六大学野球応援に関して、行事のあり方を議論し、廃止提案を作成した。教員会議での審議を経て、2019年度から六大学野球応援は廃止となった。それに伴い、高校生徒会組織図から野球応援実行委員会を削除し、生徒会会則を変更すべく臨時生徒総会を開催し投票を行ったところ、賛成・反対いずれも会員数の過半数を超えることがなく、この案件は不成立となり、組織図に野球応援実行委員会が残る結果となった。来年度以降の対応の検討を要する。</p> <p>5. クラブ指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学付属校である本校における部活動の意義を議論した。合宿に関しても、実施場所・年間合宿日数・費用・引率顧問数等、振り返り、生徒の安全・安心、顧問の働き方が持続可能なものとなるよう検討したい。 2016年度のクラブ事故を踏まえ、2017年度に着手したクラブ顧問マニュアルを形にした。さらに細部の確認をしつつ、実用性のある完成版を目指したい。 クラブコーチ懇談会を開催した。コーチを含め、指導者全体で共通認識をもつことは重要である。しかしコーチが参加したクラブ数が減少している。より参加しやすい形が急がれる。 危機管理活動のひとつとして、本校ガイドラインをもとに、各クラブ代表生徒に対して熱中症対策講座を行い、熱中症の予防、熱中症になった場合の対応法等について共に学ぶ機会を持った。 マネージャーの数に関しては現状に鑑みて人数を限定しないこととした。 数年来保護者より要請のあった各クラブの年間諸経費に関する調査を行い新入生ガイダンスにおいて事前に情報を提供できるようになった。 公欠の規定に関して 2001 年度の規定を現状に見合ったものとするため検討を開始した。妥当性を備えた規定とすべく継続して更なる検討を重ね、完成を目指したい。 <p>6. 地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通指導員やスクールサポーターと定期的に情報交換をした。生徒が事故において加害的立場、または被害を受けるようなケースが発生した場合には、警察や近隣の学校と連携して迅速に対応できるよう、引き続き日頃から連携したい。 	
4	<p>安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</p>	<p>1. 保健</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月に教員対象にエピペン講習会を行い携帯者の情報共有を行った。 感染症対策について保健だより等で注意の呼びかけを行った。 12月の中3修学旅行で感染性胃腸炎、1月の宿泊行事でインフルエンザが流行した。宿泊行事前に体調不良者や発熱がある場合は自粛するよう呼びかけを強める必要がある。 性教育等の健康教育：学年会と協力し、中1と高3(3学期講座・希望者)で実施した。中3向けにカウンセラーから思春期についての講義を行った。 健康診断後および高3卒業時に小1次からの成長曲線を、健康教育の一環として、封書で配付している(2015年度頃～)。 <p>2. 安全・施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院搬送件数は8件で平年より少なかった。内科1件・切創1件・骨折において、「#7119」や学校医らと相談し、緊急度が高いと判断し救急車を要請した。 熱中症指数を誰もが確認できるようグラウンド入り口に熱中症指数計を設置した。 AED設置場所に、緊急時必要物品(遮へい用シート・保温用タオル・緊急時対応マニュアル等)を準備し、誰もが分かるよう表示した。 各種ガイドラインの周知、重大事故対応マニュアルの配布を全教職員に行った。 初任者研修にてAsukaモデルのDVDを視聴し緊急対応について学んだ。 グラウンドや体育館の施設・設備の点検を行った。 <p>3. 環境・防災</p> <ul style="list-style-type: none"> AEDを卒業記念品として寄贈を受け設置場所の検討を行った。全員がAEDを確実に使用できるようにする訓練が急務である。中期的な課題としては雨天時の避難訓練の運営の検討、災害が発生した際の地域との協力関係、緊急時避難場所としての私学生徒の受け入れ方などである。 中1高1対象の救命講習、薬物講習など生命を守るための意識を高める講習は滞りなく実施することができた。 <p>4. 食堂・購買・スクールランチ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校内食堂は、2007年度の移転時に開業したものの、経営難が続き、これまで3社が撤退した。学校側が水光熱費を全額負担、あるいはスクールランチでの営業保障も行った。しかし、一営業日の利用者が平均して100名に満たず、赤字営業が続き、2017年度に3社目が撤退した。食堂の利用者を増やそうと、生徒会が取り組んだ時期もあったが、この時は大きな成果をあげるまでに至らなかった。開業を準備していた業者があったが3月に倒産するという事態が起き、2018年4月以後は、購買業者を確保したにとどまっている状況。現在は、候補となり得る1、2の業者について、担当である大学施設部と検討、協議している段階にある。再開のあかつきには利用者を増やしていく手立ても必要と考える。引き続き学校として食堂再開に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 食堂については、実現がきびしい状態かと思います。学校でのお弁当販売等ができるかと保護者の負担軽減ができるのでは？ 3について、災害時の対応(避難場所、水、食料、薬等の保管の有無など)が知られていると安心です。 4について、食堂、早期再開を希望する声を耳にします。
5	<p>連携 (保護者、卒業生、地域等)</p>	<p>1. PTA</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員会、運営委員会ははじめPTAの方々のご尽力で活動を滞りなく遂行できた。 通学用リュックへの要望が高まり保護者目線の切実な要求が寄せられた。6月PTA運営委員会において「通学時のリュックサック使用許可を」という意見にまとめ、9月教員組織に提出された。学校として保護者の意見を尊重し、従来のスクールバッグに 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意見が実現したことは、すばらしいと思います。特に、子どもの体を考えての事でしたので良かったです。

		<p>加え学校指定のリュックの作成を決め、生徒から機能・デザインのアンケートを採り選定した。生徒の要望を受け、数年間教員が検討してきたことと保護者の意見が後押しとなって、安全に関わることゆえ実を結んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員のみなさんは献身的に活動してくださっているが、役員の選出方法はじめ役員会のあり方、PTA 全体の活動のあり方について、そろそろ一定の方向を持つ必要がある。 <p>(1) 各部会（文化厚生、広報編集、公費助成）の活動の工夫・改善</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文化厚生部：活動の内容がマニュアル化されていて、年度が変わっても継続的に活動できる状況ができています。一層推進したい。 ② 広報編集部：編集用の機器も導入され、一層スムーズな編集作業につなげる道筋ができた。原稿の依頼・回収には課題が残る。次年度も追い求めたい。 ③ 公費助成部：委員さんも一生懸命に活動へ取り組んでくださっているが、署名数の減少に歯止めをかけることはできなかった。今日の社会状況下で署名という手段にどのように取り組むか、他の有効な手段はないかという問題は、依然として課題となっている。小中協議会は粘り強く活動することができた。 <p>(2) 適切な PTA 予算作成・執行と総会運営</p> <p>PTA 予算は会計監査も中間監査を含め適切に執行されている。予算項目および金額に関しては再検討に着手し新しい考え方を検討する必要がある。</p> <p>2. 地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「苦情はアドバイス」「自分事として受け止める」ことを生徒に浸透させたが、電車内での行動等も含め、アドバイスが年間 60 件を超えた。特に鈴掛祭と定期試験の前後、クラブ終了後の下校時が多い。生活指導部発信の発行物は一定の効果があった。 ・自転車通学者に万一の事故に備えて保険への加入を呼びかけた。駐輪場の自転車に対する破壊行為が複数回発生した。生徒の人権擁護を第一に、再発防止の対応策の検討が急がれる。 <p>3. 卒業生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/17（土）「第 21 回ホームカミング・デー」参加者：46 名（卒業生 36 名・同窓会役員 7 名・退職教員 1 名・教職員 4 名） 	
6	大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウェルカムフェスタ」(7/8)と法政大学見学(学部説明会 12/15、18)はじめ多様な高大連携の事業・行事が行われた。 ・“One Day Science in Hosei Koganei Campus” (8/22)には本校から 16 名(3 付属で 69 名)が参加し、情報科学部・理工学部・生命科学部が提供した計 6 つのプログラムを通じて理数系分野の先端的かつ多様な学びの体験学習を行った。 ・“Hosei Summer English Camp” (8/28～30・2泊3日)本校からは 20 名(3 付属校で 67 名)が参加し年々参加者が増えている。アイスブレイキング活動、留学生リーダーとの交流、プレゼンテーション、行動計画の作成など、グローバル化時代に求められる英語力の習得に励んだ。 ・英語プレゼンテーション大会(2/17)には、3 付属校から 4 つのグループと 4 名の個人(合計 14 名)が参加し「世界のどこでも生き抜く力」をテーマにプレゼンを行った。本校から個人 2 名は(高 1、高 2)と 1 つのグループ(高 1 女子 3 名)が参加し、高 2 生が” Knowing Japan to Live Abroad” をテーマにプレゼンを行い総長杯を受賞した。高大連携の様々な行事を紹介し多様な能力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカム フェスタ、大学説明も学校案内も詳しく説明があり良いと思います。また、他の付属校の生徒とも会える機会となり、子どもたちも連帯感が増したのではないのでしょうか。 ・進路決定に際し、直接大学生と話しをする機会はとても参考になるようです。今後も高大連携の行事は是非継続して下さい。

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2018 年 9 月 8 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	三者協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・2010 年度の「土曜講座」を契機に、三者協議会について他校の実践に学び、生徒の活動を広げていくというスタンスを重視し準備会を重ねた。三者協議会規約案が承認され、2014 年に三者協議会第 1 回が開催された。生徒と保護者、教職員が対等に話し合い、急いで結論を出すことではなく、それぞれの立場の意見を聞き多面的に問題をとらえ、話し合うプロセスを重視して行ってきた。 ・今年度も三者協議会を開催することはできなかった。取り上げるべき話題はあるものの、日程調整が困難であった。今後の課題である。三者協議会についての学習、HR 討議での要求の掘り起こし、スケジュールを追求していきたい。 ・近隣地域との関係づくりの観点から三者協議会を開催し、生徒・保護者・教員それぞれの意見や考えを交換し、状況の改善を図りたい。 ・開催が決まった際には広く告知し参加を呼びかけたい。 				
2	教育理念	<ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度から始まる中学校の「道徳」は次の 4 つの柱とした。 ① マナー、モラルの教育（公共のマナー、情報機器利用のモラルなど） ② 自校教育 ③教科書の活用 ④行事に関する準備。 <p>2018 年度教務部作成の「道徳」のモデルを参考に、2019 年度には中学の各学年会が本校の教育目標をもとに具体的なプランを作成し、本校らしい「道徳」の授業を展開することが望まれる。「自由と進歩」の理念を生徒に浸透させる取り組みの 1 つとしたい。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・マナー、モラルについては、社会人になって最も大切な事と思います。今後力を入れてほしいです。 	
3	入試広報	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット出願に無事移行することができた。それに伴って事務作業および紙媒体印刷費の予算削減も進んだ。 ・入試関連の催しとして、入試結果の報告会（塾対象）、オープンキャンパス、施設見 			<ul style="list-style-type: none"> ・説明会等、生徒と受験希望者が話せる機会を設けてはいかがでしょうか（今は、オープンキャンパスでしか、在学生と 	

		<p>学会、鈴掛祭ミニ説明会、中学夏の説明会、中高秋の説明会、直前対策講習会を滞りなく行った。オープンキャンパスにおける在校生やPTAによる入学後の生徒や保護者のコーナーは今年度も好評だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の目指す教育、理念などにに基づき、カリキュラムや行事などを具体的にアピールできるような広報活動を展開する必要がある。そのために本校独自の教育について学内で協議する機会をもちたい。 さまざまな場面で「生徒の活動の様子」を見たいという要望が聞かれる。各媒体や入試イベントなどで、引き続き生徒の協力を求めるほか、ICTの活用やSNSでの発信などの新たな機会を検討したい。 	<p>会話ができないので)</p>
4	地域	<ul style="list-style-type: none"> 井の頭公園駅構内には通行区分がないこともあって、電車に乗る近隣住民と電車を降りた本校生徒とが交錯し、意見を受けることが増えてきた。また、乗車マナーに関する意見もいただいている。教員間で共有し、各HRで生徒の注意を喚起した。 高校生活委員会による登下校時の現状把握、中学生生活委員会による挨拶運動を行った。マナー向上のために生徒ができることを考えさせる機会となった。 下校のあり方など、事態の改善に向けて、保護者の方の協力をえて、教員と生徒会執行部のそれぞれに何ができるかを引き続き検討していきたい。 部員による自主的な清掃活動が定着し、7月の地域懇談会にて感謝の言葉を頂いた。タイヤ公園の清掃活動を高齢の方々で行い苦心しているため、協働で行う機会をもってもらいたいとお誘いを受けた。地域との関係づくりに発展させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 以前よりは、地域とのコミュニケーションがうまくいっているように思える。 マナーに対するご意見を多く耳にする中、『部員による自主的な清掃活動』は存じ上げませんでした。災害時の助け合い場面を想定すると、地域との交流は必須。少しずつでも評価が上がる努力を続けていって欲しいです(我々PTAを含め)。
5	子育て茶話会	<ul style="list-style-type: none"> 本会は2012年1月より緩やかにスタートし、子どもとの関わり方について保護者と教員が共に考え勉強することを目的とし、現在悩み苦しんでいる個々の生徒の問題をどのように解決するかヒントをえることを大切にしてきた。PTAの日程に合わせて月1回土曜日に開催し年間6回実施した。保護者、教員、スクールカウンセラーの参加をえて「親離れ子離れ」などの話題で懇談した。父親の参加者も増えて心強いという評価をえている。カウンセリングルーム便りおよびHPでの告知をしているが、参加者が固定化しないよう積極的に宣伝したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どものメンタルについて、意見を聞くことができる貴重な時間だと思います。保護者にも積極的に参加していただきたいです。